



2019年3月期 決算説明会

ケンコーマヨネーズ株式会社

2019年5月22日



①. 2019年3月期 決算概況

②. 2020年3月期 業績予想

(常務執行役員 経営企画本部 本部長 京極 敦)

③. 中期経営計画

「KENKO Value Action ～価値の創造～」
進捗について

(代表取締役社長 炭井 孝志)

①. 2019年3月期 決算概況

2019年3月期 決算ハイライト (連結)

①. 2019年3月期 決算概況



	実績	前期比	修正予想比 (18年11月発表)
売上高	73,989 百万円	1.7%	△0.7%
営業利益	3,116 百万円	△25.3%	6.7%
経常利益	3,145 百万円	△24.2%	4.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,296 百万円	△20.2%	1.2%

(売上面) **前期比で1.7%の微増。修正予想比では0.7%のマイナス**

- ✓ 調味料・加工食品事業は、
主力商品のポテトサラダを中心としたサラダ・総菜類が減収
- ✓ 総菜関連事業等は、ダイエットクック白老新工場、
関東ダイエットクック 神奈川工場稼働による効果で増収

(利益面) **前期比は減益であるものの、修正予想は上回る**

- ✓ 立ち上げから軌道乗せまでの新工場関連費用 (ラインテスト、消耗品等) の増加
- ✓ 工場を中心とした人件費の上昇

2019年3月期 業績（連結）

①. 2019年3月期 決算概況

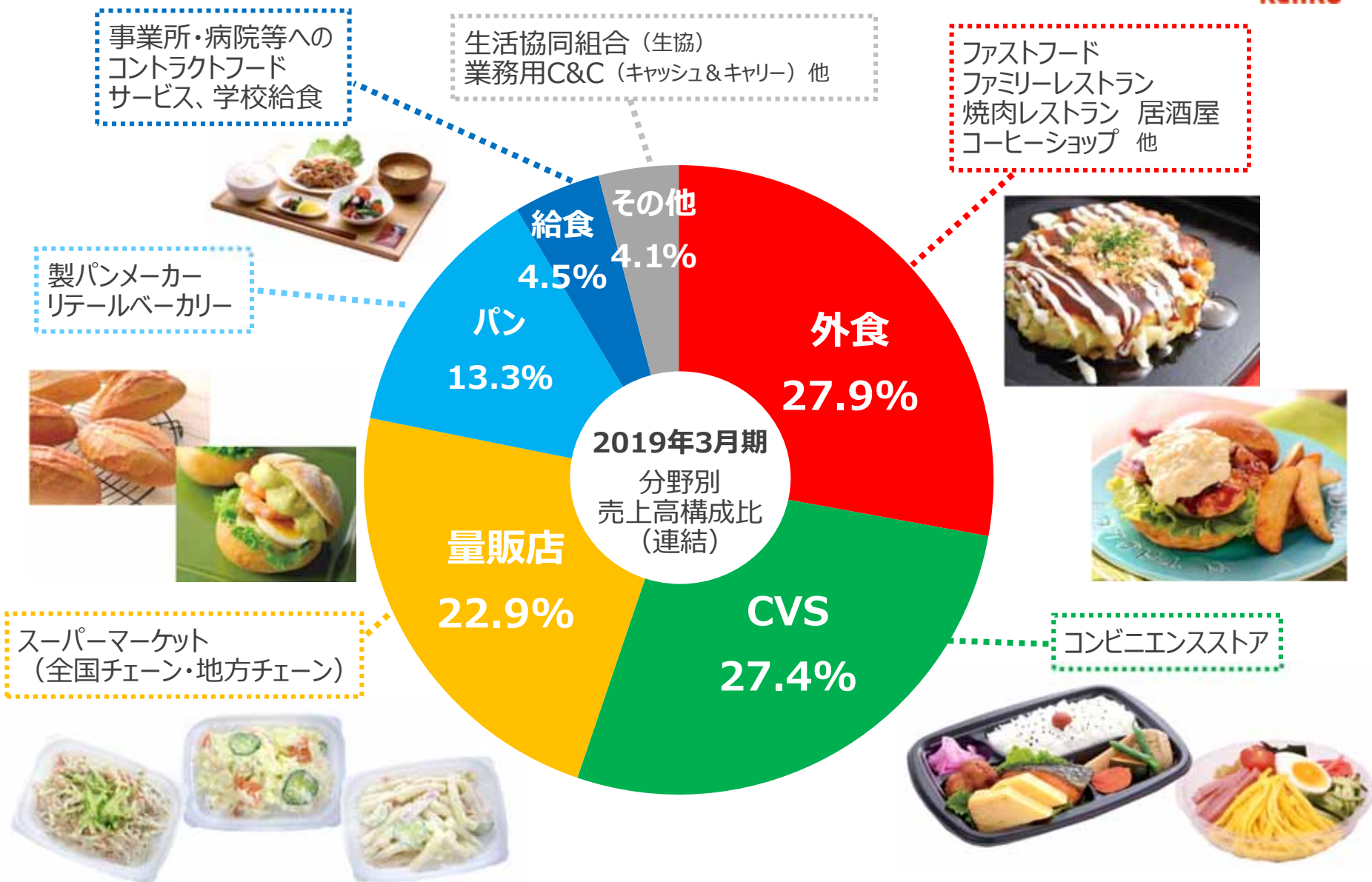


連結損益計算書 概要	2018年3月期	2019年3月期			2019年3月期 修正予想 (2018/11/9発表)
	金額	金額	前期比	予想比	金額
売上高	72,759	73,989	1.7%	0.7%	74,500
売上総利益	18,922	18,210	3.8%		-
(売上高総利益率) %	26.0%	24.6%			
販売費及び一般管理費	14,748	15,094	2.3%		-
営業利益	4,173	3,116	25.3%	6.7%	2,920
(売上高営業利益率) %	5.7%	4.2%			3.9%
経常利益	4,149	3,145	24.2%	4.8%	3,000
(売上高経常利益率) %	5.7%	4.3%			4.0%
税金等調整前当期純利益	4,205	3,781	10.1%		-
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,877	2,296	20.2%	1.2%	2,270
(売上高当期純利益率) %	4.0%	3.1%			3.0%
1株当たり当期純利益	174円65銭	139円40銭			137円78銭

分野別売上高構成比（連結）



①. 2019年3月期 決算概況

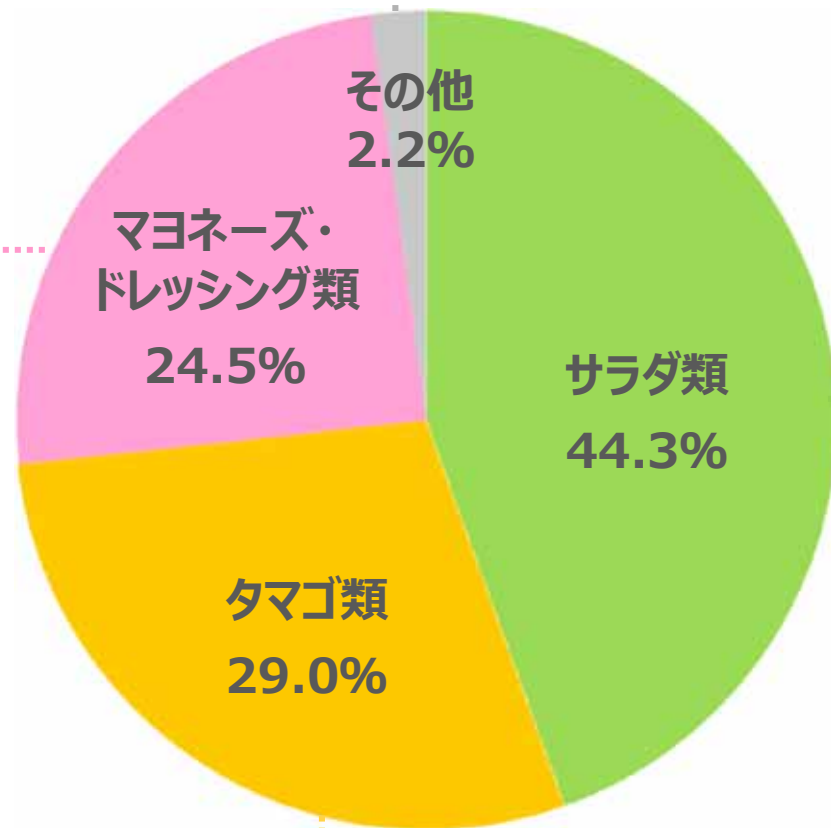
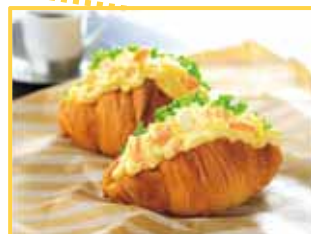


商材別売上高構成比（連結）

①. 2019年3月期 決算概況



【2019年3月期】



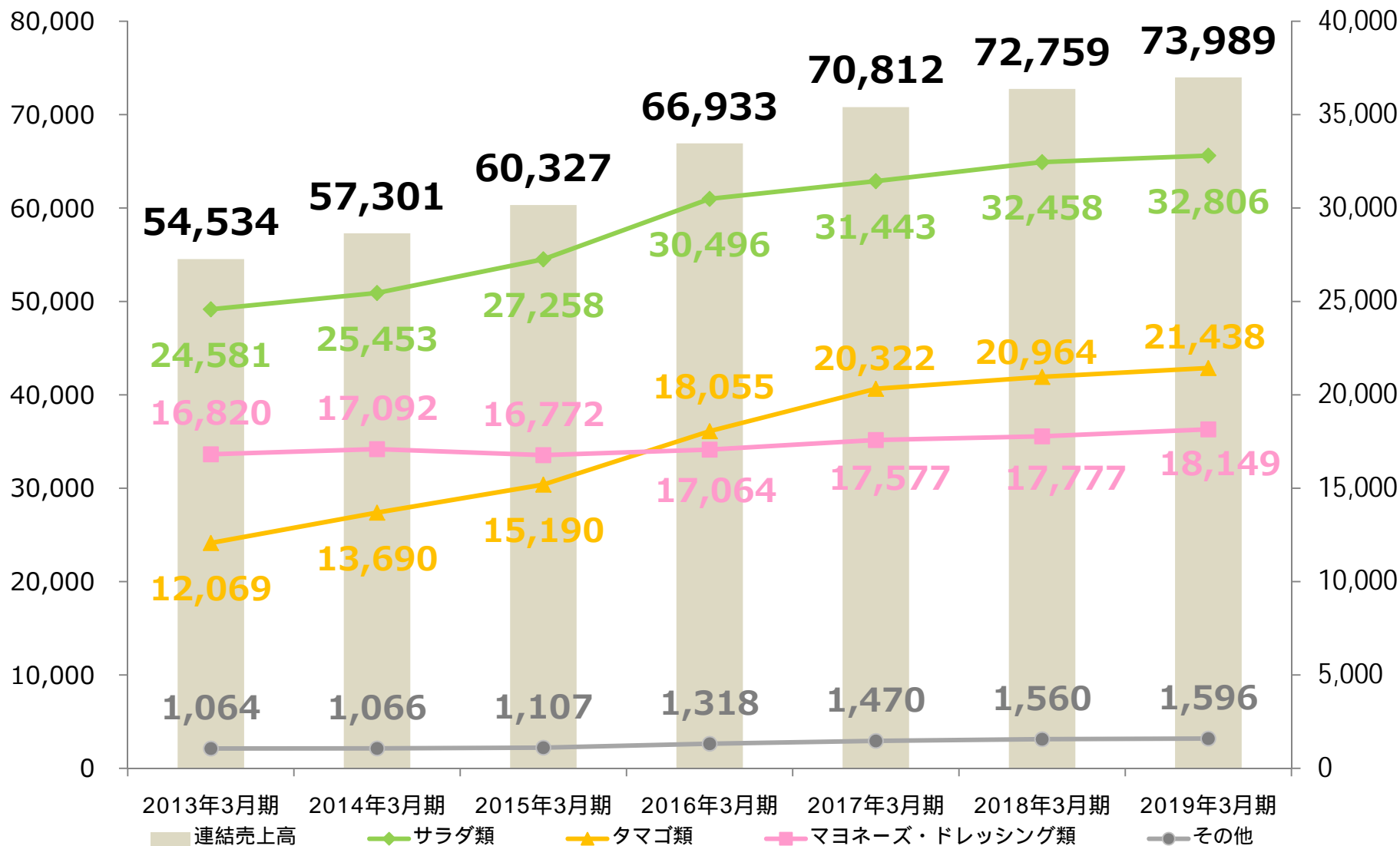
商材別売上高推移（連結）

①. 2019年3月期 決算概況



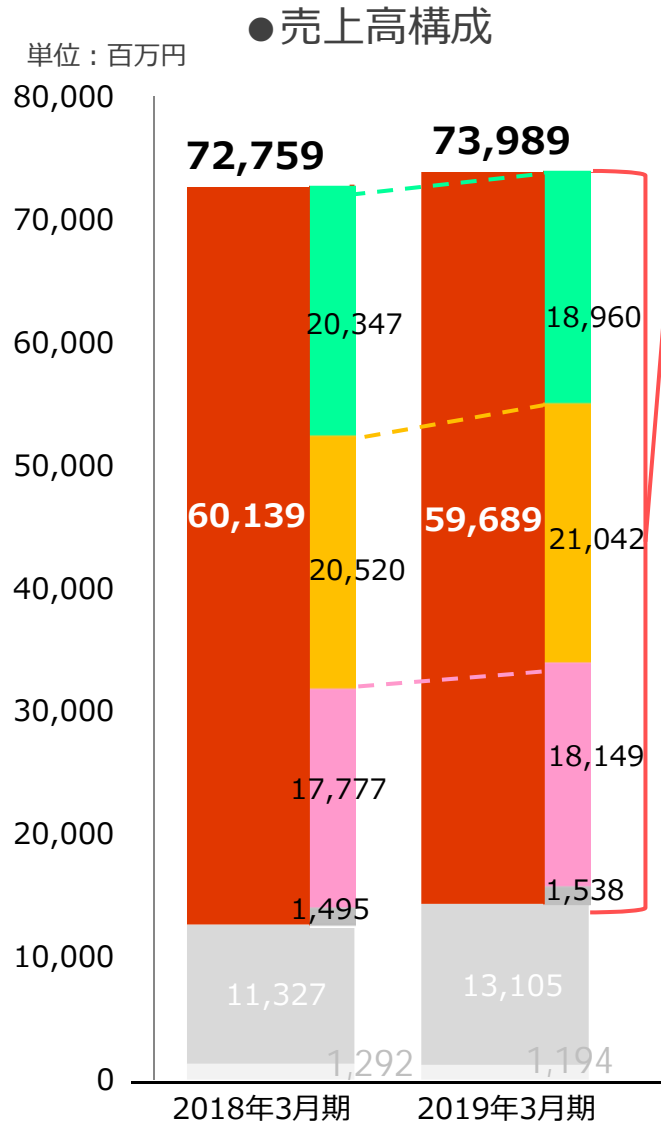
商材別売上高
単位：百万円

連結売上高
単位：百万円



事業別売上高概況（連結） - ① <調味料・加工食品事業>

①. 2019年3月期 決算概況



■ 調味料・加工食品事業 (売上高 △0.7%)

<サラダ・総菜類、タマゴ加工品、マヨネーズ・ドレッシング類>

● 販売重量：△0.4% 販売単価：△1.9円/kg

■ サラダ・総菜類 (売上高△6.8% 販売重量△4.9%)

- ・主力の1kg形態や小型形態のポテトサラダが減少
第3四半期以降、1kg形態のポテトサラダは回復基調
- ・外食チェーンをはじめとしたメニュー変更等により、
パンプキンサラダ、明太子、コーンを使用した商品が減少

■ タマゴ加工品 (売上高+2.5% 販売重量+2.3%)

- ・麺用の錦糸卵やお弁当用のだし巻き卵、オムライス用のスクランブルエッグの販売がコンビニエンスストアを中心に増加
- ・茹で卵が外食を中心に幅広く採用され増加

■ マヨネーズ・ドレッシング類 (売上高+2.1% 販売重量+1.0%)

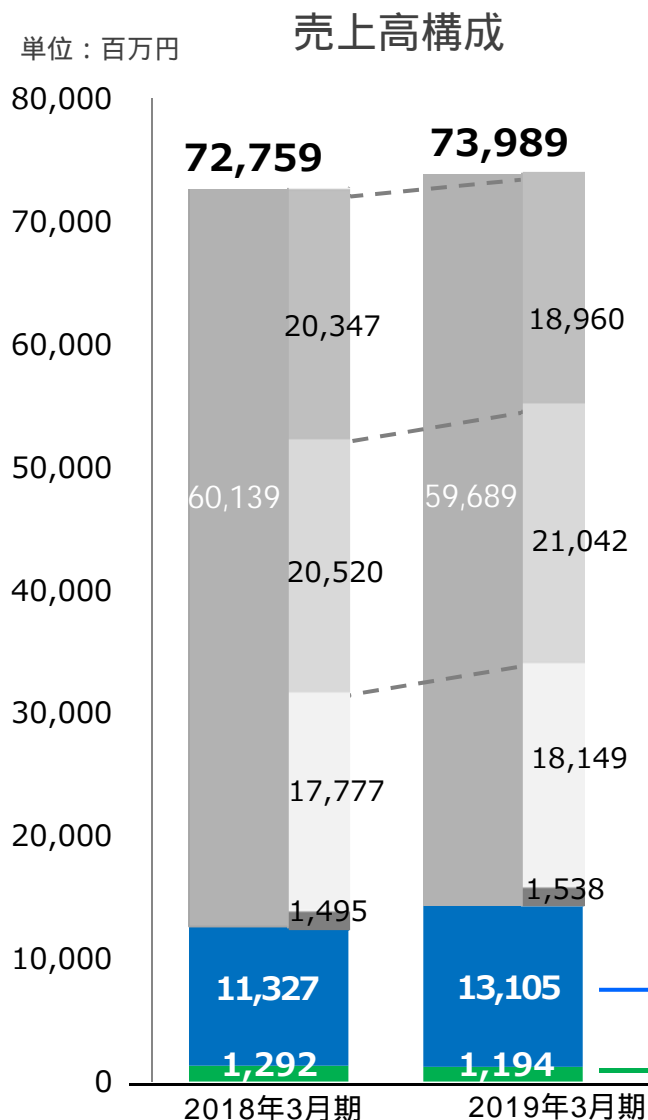
- ・ファストフード向けの販売が好調
- ・コンビニエンスストア向け等のソース類が伸長
- ・外食向けを中心にタルタルソースの販売が好調

■ 調味料・加工食品事業 (■ サラダ・総菜類 ■ タマゴ加工品 ■ マヨネーズ・ドレッシング類)
■ 総菜関連事業等 □ その他

©2019 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.

事業別売上高概況（連結） - ② <総菜関連事業等・その他>

①. 2019年3月期 決算概況



■ 総菜関連事業等 (売上高 + 15.7%)

<フレッシュ総菜（日配サラダ、総菜）、グループ内生産受託>

- ・ダイエツクック白老新工場、関東ダイエツクック神奈川工場の稼働による売上高の伸長
- ・主力商品のポテトサラダ、季節商品の売上高増加



■ その他 (売上高 △ 7.6%)

<ショップ事業（Salad Cafe）および海外事業>

海外事業は、持分法適用会社のため売上高には含まれません

- ・2018年3月 関東地区2店舗(いもたまや 伊勢丹新宿店、WaSaRa そごう横浜店)閉店
- ・関東ではグリーンサラダ、コールスロー等の季節の葉物系サラダ、関西ではフルーツサラダ、ポテトサラダ等の練りサラダが根強い人気

調味料・加工食品事業 総菜関連事業等 その他

事業別売上高・セグメント利益（連結）

①. 2019年3月期 決算概況



単位：百万円	2018年 3月期	2019年 3月期	前期比	
			増減	%
売上高	72,759	73,989	1,229	1.7%
調味料・加工食品事業	60,139	59,689	450	0.7%
総菜関連事業等	11,327	13,105	1,778	15.7%
その他	1,292	1,194	98	7.6%
セグメント利益	4,149	3,145	1,004	24.2%
調味料・加工食品事業	3,400	3,219	180	5.3%
総菜関連事業等	811	83	895	-
その他	98	6	105	-
調整額	36	2	33	-

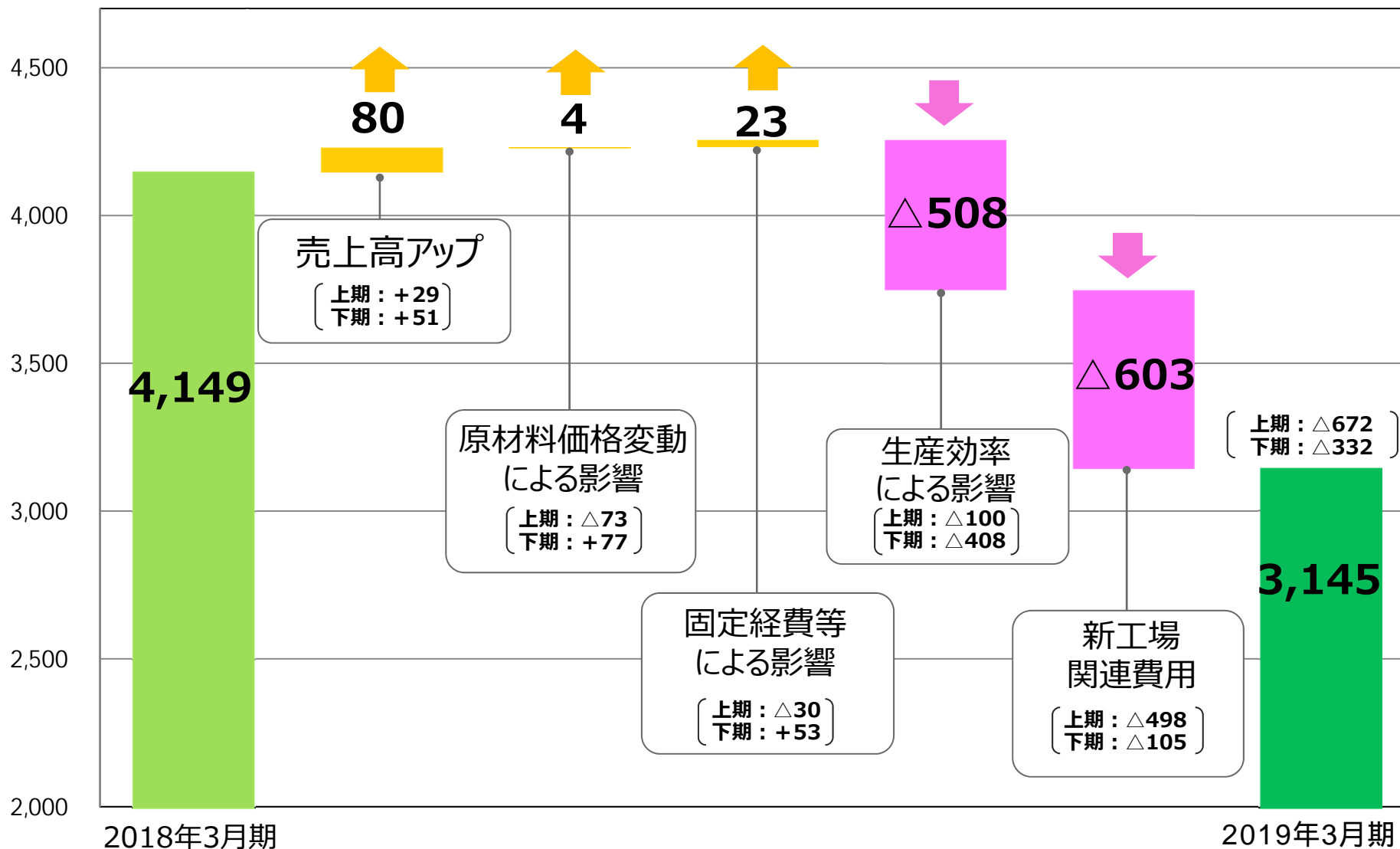
経常利益増減要因 (連結)

①. 2019年3月期 決算概況



単位：百万円

※新工場関連費用・・・稼働前及び稼働後3か月以内にかかる費用



貸借対照表の概要 (連結)

①. 2019年3月期 決算概況



		2018年3月期	2019年3月期	増 減	前年度末比
* 長期未払金を含む		単位：百万円			
資 産	流動資産	30,121	27,945	2,176	7.2%
	固定資産	34,716	42,159	7,443	21.4%
資産合計		64,837	70,105	5,267	8.1%
負 債	うち有利子負債残高 *	13,789	19,020	5,231	37.9%
		33,853	37,204	3,350	9.9%
純資産		30,984	32,900	1,916	6.2%
負債・純資産合計		64,837	70,105	5,267	8.1%
1株当たり純資産		1,880円61銭	1,996円95銭	116円34銭	6.2%
自己資本比率		47.8%	46.9%	0.9%	-

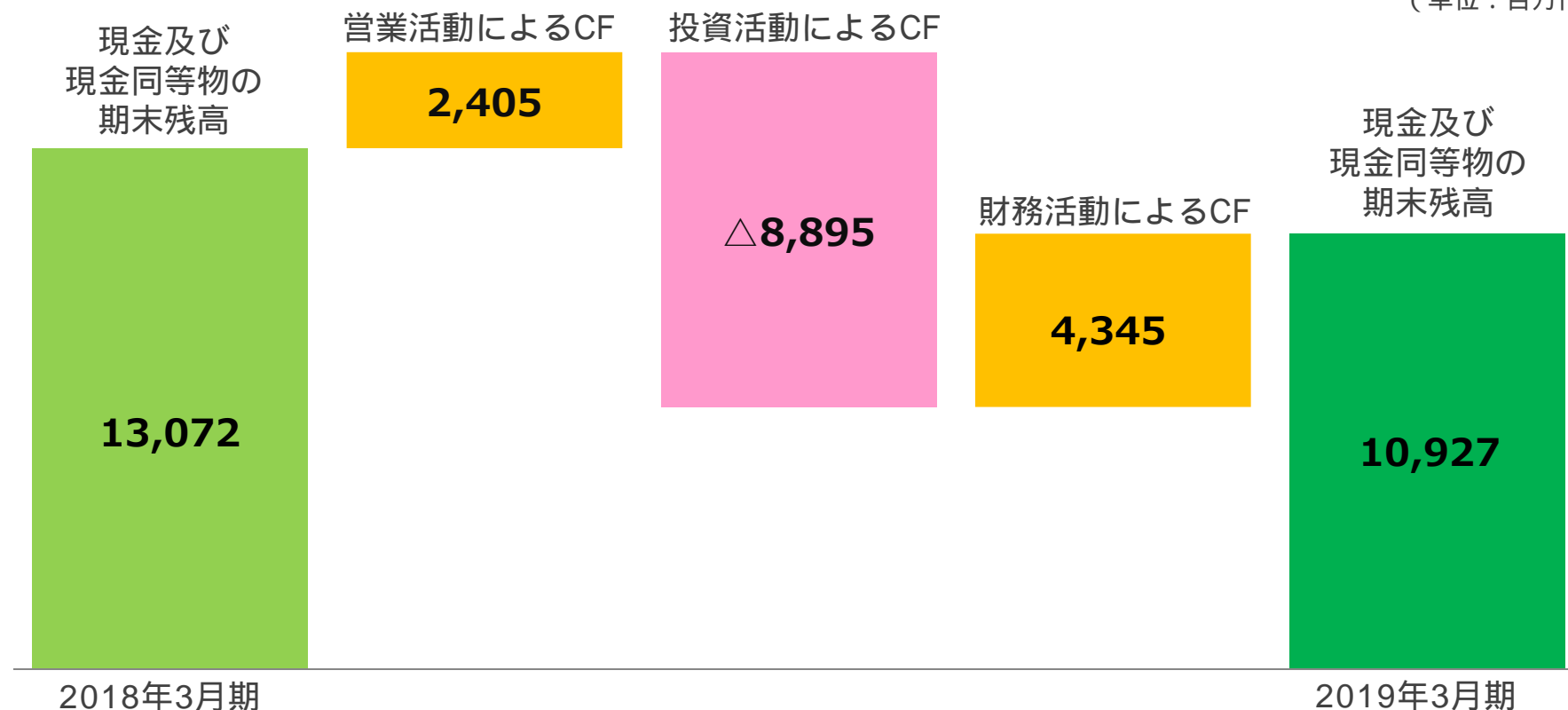
- 生産拠点構想に基づく投資により、固定資産が7,443百万円（21.4%）の増加
- 自己資本比率は46.9%（期末が休日である影響を考慮した比率は48.0%）

キャッシュフローの概要 (連結)

①. 2019年3月期 決算概況



(単位：百万円)

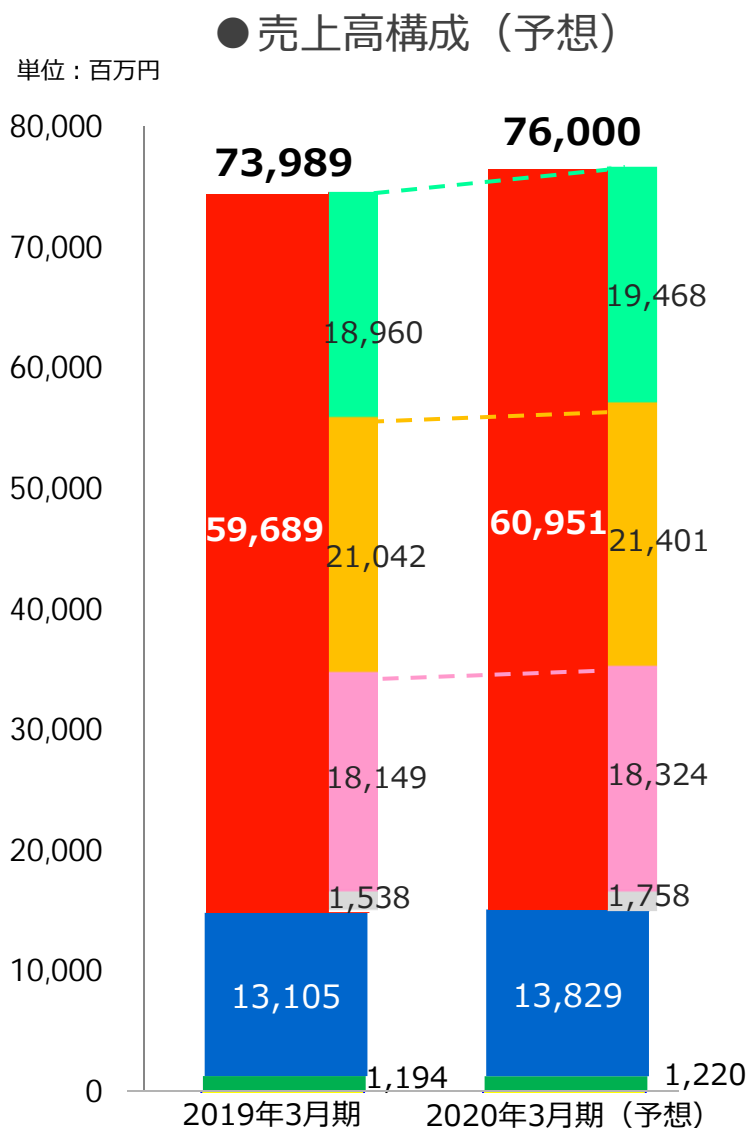


- 営業CF：税金等調整前当期純利益等による影響
 - 投資CF：有形固定資産の取得、北米事業等による影響
 - 財務CF：借入金等による調達増
- 現預金残高は前期末から2,145百万円の減少

②. 2020年3月期 業績予想

事業別売上高予想 (連結)

②. 2020年3月期 業績予想



■ 調味料・加工食品事業 (■ サラダ・総菜類 ■ たまご加工品 ■ マヨネーズ・ドレッシング類)
■ 総菜関連事業等 ■ その他

©2019 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.

●ポイント

■調味料・加工食品事業 <サラダ・総菜類、たまご加工品、マヨネーズ・ドレッシング類>

・生産能力の増強を活かした販売数量の拡大

- サラダ** (ダイエットクック白老) 素材系ポテト ▶ 外食向けを中心に提案強化
- サラダ** (西日本工場) ロングライフサラダ ▶ 小型を含めた多様な形態でお客様の細かなニーズに対応
- たまご** (静岡富士山工場) 小型形態商品 ▶ 中食向けを中心に販路拡大

・商材別シリーズ商品の拡充、ブランド価値の更なる向上



■総菜関連事業等 <フレッシュ総菜(日配サラダ、総菜)、グループ内生産受託>

- ・ダイエットクック白老新工場、関東ダイエットクック 神奈川工場を活用したフレッシュ商品の販売数量拡大
- ・肉類、魚類等を使用した主菜型商品の開発強化

■その他 <ショップ事業 (Salad Cafe) および海外事業 >

※ 海外事業は、持分法適用会社のため売上高には含まれません

- ・「美」をテーマにした商品設計により女性をターゲットにした顧客拡大

2020年3月期 業績予想 (連結)

②. 2020年3月期 業績予想



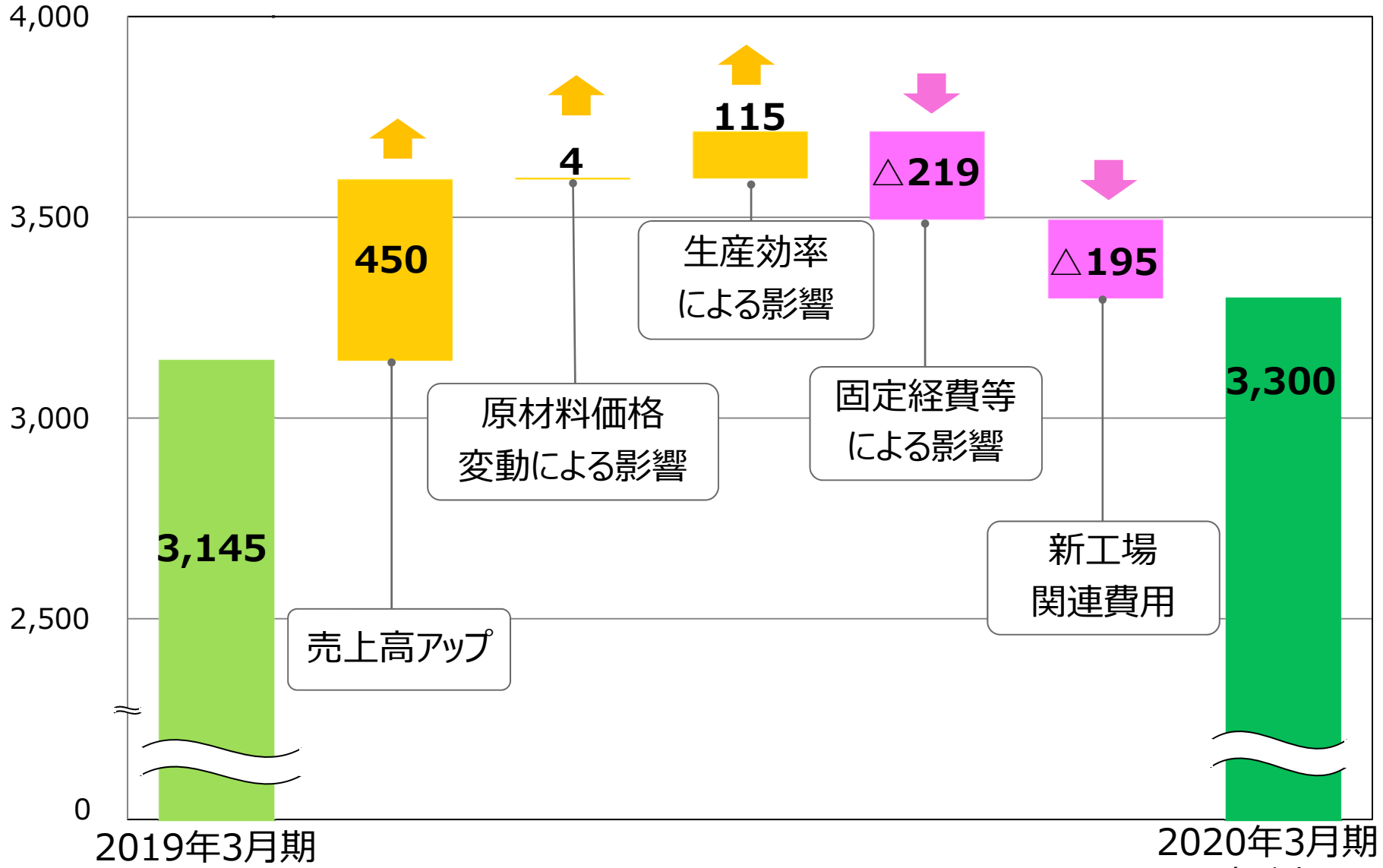
単位：百万円	2019年3月期 実績		2020年3月期 予想	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	73,989	1.7%	76,000	2.7%
売上総利益	18,210	3.8%	-	
(売上高総利益率) %	24.6%			
販売費及び一般管理費	15,094	2.3%	-	
営業利益	3,116	25.3%	3,300	5.9%
(売上高営業利益率) %	4.2%		4.3%	
経常利益	3,145	24.2%	3,300	4.9%
(売上高経常利益率) %	4.3%		4.3%	
税金等調整前当期純利益	3,781	10.1%	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,296	20.2%	2,350	2.3%
(売上高当期純利益率) %	3.1%		3.1%	
1株当たり当期純利益	139円40銭		142円64銭	

2020年3月期 経常利益増減予想 (連結)

②. 2020年3月期 業績予想



単位：百万円



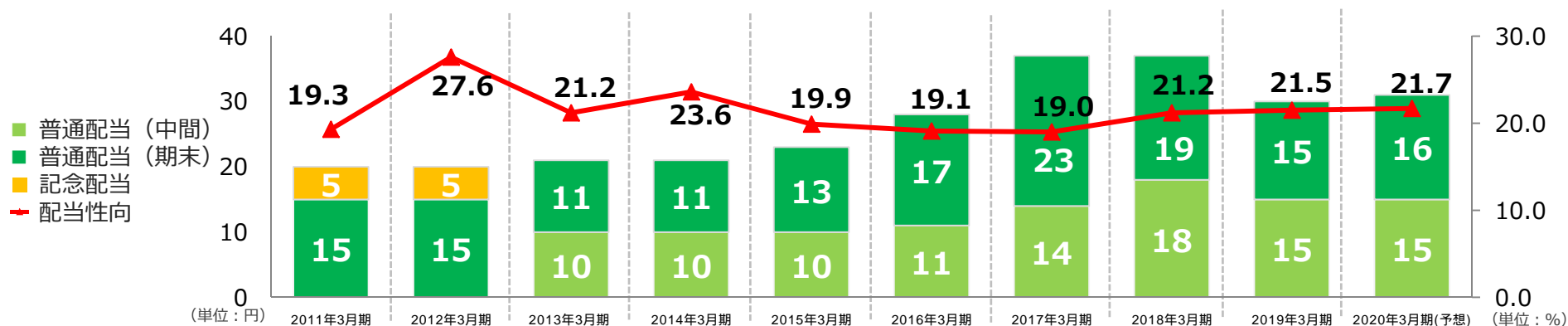
配当・株主還元

②. 2020年3月期 業績予想



安定的な配当を維持、継続するとともに配当性向の目標は20%に設定。
 今後も業績に応じて増配を目指す。

	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期 (予想)
配当金(円/株)	20	20	21	21	23	28	37	37	30	31
配当性向(%)	19.3	27.6	21.2	23.6	19.9	19.1	19.0	21.2	21.5	21.7
配当利回り(%) (ご参考) 1	3.6	3.2	2.3	2.3	1.4	1.2	1.3	1.1	1.4	-
純資産(株主資本) 配当率%(DOE) 2	2.3	2.2	2.1	1.9	1.9	2.1	2.4	2.1	1.5	-



※1 配当利回り = 1株あたりの配当金(合計) / 各年3月末日時点株価(終値) × 100

※2 純資産(株主資本)配当率 = 1株あたり配当金(合計) / ((期首 + 期末 1株あたり連結純資産) ÷ 2) × 100

③. 中期経営計画

「KENKO Value Action ～価値の創造～」
進捗について



KENKO Value Action

CSV経営の実践

地域貢献

環境・資源

サプライチェーン

ソリューション

働き方

3つの事業戦略

1. お客様と共にビジネスを創造
2. “創り・応え・広げる” 生産体制
3. サラダ料理を世界へ

“サラダNo.1企業”として成長・発展しつづける

「KENKO Value Action ～価値の創造～」《CSV経営 5つのテーマ》

③. 中期経営計画



地域貢献

～地域貢献度No.1企業を目指して～



環境・資源

～資源・エネルギー利用の効率化～



サプライチェーン

～サプライチェーンの短縮と
事業活動の改革～



ソリューション

～「技術・サービス」の事業化～



働き方

～従業員満足度の向上～





3つの事業戦略

1. お客様と共にビジネスを創造

2. “創り・応え・広げる” 生産体制

3. サラダ料理を世界へ

事業戦略1. お客様と共にビジネスを創造

③. 中期経営計画



●市場ニーズに応える商品開発

健康・ヘルシー

トリプルバランス®



→健康志向 リニューアル品

植物性素材

やさいと大豆ミート



→健康志向、インバウンド

話題性

ノンオイルドレッシング
オーシャンブルー®



→SNS映え

小型形態

サラダのプロがつくった®サラダ



惣菜亭® (小型)



→使い勝手の良さ(使い切り)

素材系

素材系ポテト商品



→調理の効率化

和惣菜

和彩万菜®



→調理の効率化

事業戦略2. “創り・応え・広げる” 生産体制-①

③. 中期経営計画



ダイエットクック白老

2018年4月 稼働開始



関東ダイエットクック 神奈川工場

2018年6月 稼働開始



2019年3月期の状況

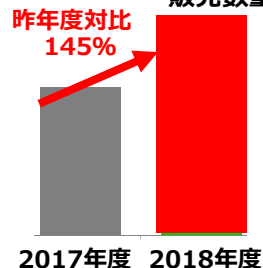
- ・2018年9月 北海道胆振東部地震の発生
→停電は発生したが人、建物等に被害無し
- ・素材系ポテトが外食向けを中心に、フレッシュ総菜も道内食品スーパー向けに販売が順調

□主な製造商品

- ◆素材系ポテト商品
- ◆フレッシュ総菜



【参考：冷凍素材系ポテト販売数量】



2019年3月期の状況

- ・所沢工場との2拠点体制の構築を進めるも、当初のスケジュールから数か月の遅延
- ・下期以降販売数量も増え、当初の計画には達していないものの、ビジネスは着実に拡大

□主な製造商品

- ◆フレッシュ総菜
- ◆その他



→加熱水蒸気オーブンを活用し、主菜となるような肉、魚類を使用した惣菜

事業戦略2. “創り・応え・拡げる” 生産体制-②

③. 中期経営計画



静岡富士山工場 第2工場

2019年2月 稼働開始





西日本工場 (増築)

2019年4月 稼働開始



今後の取り組み

- 生産能力
6,000トン/年→9,000トン/年
- 注力商材
「惣菜亭」小型形態
→使い切り対応でロス削減
レンジアップ対応

【厚焼き卵】 【だし巻き卵】

卵焼き類のシェア拡大を目指す

今後の取り組み

- 生産能力
33,000トン/年→37,300トン/年
- 注力商材
・ロングライフサラダ
(小型形態含む)





(100g以下) (150g) (500g)

多様な形態でお客様のご要望に対応

事業戦略3. サラダ料理を世界へ

③. 中期経営計画



● グローバル商品

・グローバルを意識した商品開発

素材

レッドキャベツとビーツのラペ

テイスト

世界のソース シリーズ

メキシカンタコソース

ハワイアンポキソース

ベトナムミーズレモングラスソース



● 情報発信・リサーチ活動

・グローバルな食トレンド調査

・ベジタリアン ・グルテンフリー ・ビーガン
・マクロビオテック ・調理法 ・現地食材 等

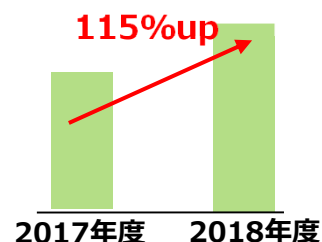
国内へ情報のフィードバック

→商品開発等への展開

● 輸出販売の拡大

・44の国と地域に商品を輸出 (2019年3月末時点)

◆輸出販売 売上高



◆輸出対応商品



輸出対応

ガーリックバターソース

- ・賞味期間の延長
- ・トランス脂肪酸対策
- ・容器の改良 等

◆海外展示会への参加

→米国・英国など
7都市で開催 (2018年)



● 海外拠点

・インドネシア事業

→年間黒字化を達成
(2018年)

・北米事業

→2018年12月 三井物産株式会社と米国中食メーカー
「Hans Kissle Company, LLC」の株式を取得

米国中食市場参入への足掛かり

国内外の食を取り巻く市場環境

③. 中期経営計画



国内

- ・ 世帯構成の変化
(人口減少、少子高齢化等)
- ・ 人手不足 ・ インバウンド
- ・ 食に対する価値観の多様化

海外

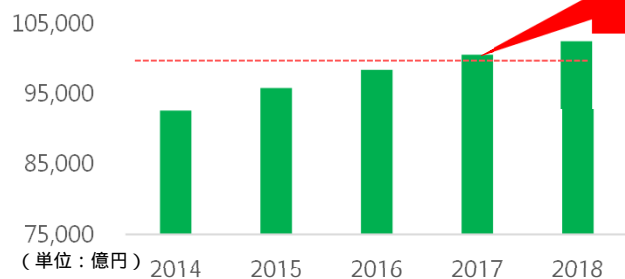
- ・ 旺盛な購買力、人口増加
- ・ 日系企業の進出
- ・ 日本食ブーム

需要とビジネスチャンス

● 中食市場への対応

▶ 食品スーパー向けフレッシュ総菜、
CVS向けお弁当、惣菜等への提案

【参考：中食（惣菜）市場規模推移】



市場規模は2017年に
10兆円を突破

出典：日本惣菜協会「2019年版惣菜白書」

● 調理の効率化

▶ 外食向けを中心とした卵焼き類、
ロングライフサラダの販売

● 高付加価値商品

▶ 機能性、健康・ヘルシー、形態、
グローバル等を意識した商品開発